

(別紙2)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490400088		
法人名	有限会社甚目		
事業所名	グループホームなごみ亀山		
所在地	三重県亀山市亀田町字眞船336-10		
自己評価作成日	令和3年10月8日	評価結果市町提出日	令和4年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanistrue&JigyosyoCd=2490400088-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社		
所在地	510-0947 三重県四日市市八王子町439-1		
訪問調査日	令和3年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街から少し離れたところに立地しており、鳥のさえずりや季節の移ろいを感じる事ができる自然豊かなところで、併設のデイサービスとの交流もあり利用者はゆったりとした生活を送っている。自らじぶんでできることをみつけ家事を楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームなごみ亀山の共有空間は、高い天井からの採光やゆっくり回る大きなファンで温度や空気の流れが調節され、ほど良い明るさの過ごしやすい環境である。毎朝窓を開けて換気し、居室やトイレ、フロアーの清掃を行い清潔である。利用者は、毎月1日の赤飯と刺身、15日の味ご飯の献立や誕生日の好物のおやつを楽しみにしている。職員と利用者との意思疎通が図られ協力し合って食事の準備や後片づけをして貰うことで利用者の自立支援に向けた取り組みが行われている。また、今年1月より毎月、利用者の写真入りで活動の様子を掲載した「なごみ亀山たより」を家族へ送付し、利用者や家族とのコミュニケーションや家族の安心に役立っている。事業所の理念「利用者さん本位によりそった介護」の実現に向けて頑張っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は以前よりわかりやすくなっているがそれはそれとして職員間で共有しやすい行動指針を示している。	「利用者さんによりそった介護」を理念に職員会議等で共有、理解している。実践しやすい指針を示すことでより良い支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	最近では新型コロナの影響で地域のイベントには参加はないが併設のデイサービスの職員が行う演奏会に参加している。	新型コロナの影響で地域行事への参加はできないが、併設のデイサービスの楽器演奏会に参加し地域のデイ利用者と交流している。また、地元のデイの利用者が散髪に来てくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の家族と認知症の理解や難しい点など会話を通し共通の認識としてとらえている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ここ最近コロナ禍で運営推進会議の開催がなく報告などされていないが孤立しないようあらゆる方法で意見交換していきたい。	コロナ禍のため事項書の資料送付に終わっている。運営推進やヒヤリハット等、何かあれば運営推進会議のメンバーへ連絡し相談している。	資料は、メンバーだけでなく利用者の全家族へ送付し、意見のフィードバックができる取組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことや不明な点は広域連合や包括支援センターに電話して助言してもらっている。	広域連合(鈴鹿、亀山)や包括(亀山)支援センターとは、電話での連絡や相談に乗って貰ったりもしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月ミーティングの場で身体拘束をしなくてもいいような他に何か方法は無いかと考え、実践し問題点を洗い出している。	事業所内で年2回以上の研修を行っている。4点柵で1箇所外して落下した利用者があり、拘束と安全のどちらを優先すべきか悩みながらより良い方法を模索する努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ベッドからの転落防止の為ベッドの4点柵をしていた利用者に対して他の対策を皆で話し合い不安は残るが4点柵を廃止できた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	朝夕の申し送りや月例会などで話したり併設の必要な場合は居宅介護支援事業所や包括支援センターに相談助言を求めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に面談し、説明したうえで納得、同意を得ている。また改定の際は口頭、文書をもって同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を言いやすい環境作り心がけ内容によっては代表者に相談したり、運営推進会議で幅広く意見を求めている。	コロナ禍で家族の訪問を制限しているため、毎月の利用料金報告を電話で連絡する際に、家族の要望等を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例会や定期的な代表者の面談の機会を持って職員の思いや意見を聴取している。	職員会議や個人面接の機会があり、職員の意見や要望を把握し、改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1度職員が自己評価を行い、管理者の報告や向上心のある職員に対しては惜しみない支援を行いまた給与や労働時間に対しての相談も一緒に考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に向上心や創意工夫を目指すことと自己研鑽に努めるよう法人内外の研修に参加するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者と連絡を取り合い意見交換をしたり亀山市グループホーム連絡会に加入し勉強会の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者と面談して施設の生活を安心して送れるよう話しやすい環境づくりにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と同席を求めたり、場合によっては別々に面談して困りごとや要望を聞きながら中立的な立場で関係性を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の面談でわかる限り必要なこと大切にしていることを聞き取り、それでも見えてこないことがある、その場合は実際に関わりながら他のサービスを検討していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側される側でなく同一家族として尊敬と感謝の気持ちをもって一緒に生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族両者とも今までの関係性を大切にながら偏らない支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中以前のように顔と顔を合わせることが少なくなっている。電話や手紙のやり取りで関係性がきれいなよう支援している。	病院での受診の際に出会った馴染みの人との手紙での交流支援や施設の電話を使い旧友との交流支援、また馴染みの美容院へ付き添ったりと馴染みの関係が途切れないような支援努力をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	最初は見ず知らずの間柄でお互いにぎくしゃくしているが間に職員が関与している。時間が経過するとともに利用者自身が支えあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した利用者の入院先や自宅訪問、施設訪問をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の在宅での生活パターンや生活歴を聞き取りできる限りその人らしい生活が送れるよう努めている。困難な場合も笑顔が見れるよう支援方法を探していく。	利用者の笑顔で思いや意向に対する満足の度合いを測っている。生活歴を把握し本人の望む暮らし方に沿って笑顔が見られるような介護計画を立て支援している。得意とする事の役割を持って貰うことで症状が改善した人もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用者や家族から生活歴や暮らし方を聞き取り、在宅で担当していた介護支援専門員などと情報を共有し今後のケアの参考にする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックや顔色、表情、食事量や水分量、排せつ状態など全体を観察していつもと違う様子からみている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回モニタリングを実施し新たな問題点や改善点を洗い出し、全スタッフで協議し本人、家族からも意見を出し合いプランに反映している。	介護計画の作成や3ヶ月毎の見直しは、家族の意見や毎月のモニタリングの結果に基づき職員全員で出し合った意見を反映させている。容態に変化が生じた時は随時見直している。	コロナの影響で家族の訪問が制限され家族意見は電話で対応されている。郵送等により書類へ家族の署名を確実に頂くことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の変化に気づき個別記録や特記事項、連絡ノートに記入して、ケアの実践の成功、失敗例も共有して今後の支援計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所以前の関係が途絶えないように、かかりつけ医以外の受診援助や急変時の病院受診、必要なものを取りに自宅への同行訪問、以前から通っていた美容院の付き添いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設のデイサービスに出向いて地域の人との交流の機会を持ち、花見や外出の支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科医の往診を行い、以前からのかかりつけ医受診を継続している。利用者は家族が付き添うが急変時は協力医から紹介を行いスタッフが同行している。	以前からのかかりつけ医受診は家族が、眼科や整形等への受診は職員が同行する。医師への状態報告事項や家族への受診結果報告等を行い状態の共有に努めている。投薬管理を薬局に委託し、配薬ミスや飲み忘れの無いようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調管理や体調の変化があるときは看護師に報告し的確な指示と迅速な対応を行い必要な時には適切な看護と受診に繋げている。またデイサービスの看護師の協力も得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先では施設の様子や生活チェック表、アセスメントシートを病棟に持参し情報提供を行いスムーズに退院に繋げるよう面会をできるだけ行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に対する同意書をとりかわしている。が、時間経過とともに気持ちが薄れたり、気持ちが揺れ動いたりするため再度、医師も交えて説明と同意を得たうえでスタッフ間で気持ちを一つにして終末期を迎えている。	契約時に、重度化の際の対応について説明している。時間経過や利用者の状況の変化に応じて、本人や家族の意向も変わるため、都度確認を重ねながら、主治医や看護師、職員が連携して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置と急変時対応マニュアルに沿ってどの職員も対応可能となりおり感染症対策についても看護師の元演習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回デイサービスど合同の消防訓練を実施しており、自治会には避難場所として使用可能と伝えている。またAEDの使用も必要な時は共同で使用するよう伝えてある。	業者との消防設備点検を含む防災訓練をデイサービスと合同で、初期消火と避難場所の駐車場までの非難誘導訓練を年2回実施している。食料品の備蓄は2～3日あるが、飲料水の備蓄量に課題を感じている。	避難訓練のうち、年1回は消防署と相談し、計画も含め専門家の視点から指導を受けて実施されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の居室に入る際は言葉を掛けたり排せつの介助では特に言葉かけに気を付け大きな声で接しないようにケアしている。	利用者の人格を尊重し一人ひとりの意向に沿った呼称で声掛けし、プライドを傷つけないような話し方の配慮もしている。特に、トイレでの排泄、おむつ交換の際は言葉使いやトーンに気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	限られた利用者からの意思の表現や希望を表すことができるがその他の利用者に対しては二者択一で自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れ、施設の日課に沿っていることが多く、利用者の希望に沿ってとは言えないが、工夫して支援していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選ぶことができなくなった利用者には一緒に選んだり重ね着の多い利用者には声かけをして季節感のある装いに気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	率先して食事の下ごしらえや食器洗い、食器ふきをする利用者。1日は赤飯と刺身15日は味ご飯の日を楽しみにしている。	利用者は、毎月1日の赤飯と刺身、15日の味ご飯の献立や誕生日の好みのケーキや和菓子を心待ちにしている。職員と一緒に食事の準備や後片づけをこなす元気な利用者もいる。食前に口腔体操を行い誤嚥防止に役立っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、固さ、大きさ、飲み込む力などみな様々で一人一人異なりその人にあつた食事を提供している。また水分は1日1000CC以上を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアに心がけ義歯の利用者は義歯を外して口腔内をきれいにしている。中には訪問歯科の口腔内清掃を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつチェックで一人一人にあった排せつ介助を実施している。トイレでの介助が難しい利用者ではできる限り時間を見て実施している。	利用者のトイレでの排せつを大切に思い、チェック表や観察により、排せつの自立に向けた支援をしている。夜間の問題行為に関しては看護師と相談しながら対応に当たり解決に向けた努力をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜多めの食事や水分摂取に心がけ適度な運動やマッサージ服薬や敵便で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴でごご午後に入っている。入浴剤で色と香りを楽しみひとりずつゆっくり、ゆったりと入っている。	週2回、午後に一人ずつゆっくり入浴している。季節を感じて貰おうと柚子等の植物や入浴剤を利用者の好みにより使用している。シャンプーで手の届かない利用者には職員が手伝い清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は離床を促しているが利用者の体力や体調に気を配り、午睡をすすめることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書に記載してある内容を理解して副作用についても注意書きのような症状が出現した場合はすぐに医師に報告し支持を仰ぐ。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でいきいきした表情が見えるよう外気浴や外出の支援を行っている。裁縫の得意な利用者の支援やパズルなどの支援も実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの影響で外食やショッピングは控えているが外気に触れるととても表情がよくなり施設内ではあるが天気の良い日は外気欲を楽しんでいる。	コロナ禍で外出の機会は減ったが、外気に触れることの大切さを認識しており、毎日敷地内を散歩したり、職員と一緒にゴミ出しに出るなど戸外の空気を感じて貰っている。また桜やコスモスの咲く頃、ドライブにより車の中から観賞するなどの工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何人かの利用者は財布を持っているが普段はお金を使うことは少ない。あると安心だからと知っている。買い物に行ける日を楽しみにしているようです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が電話をかけてつなぐと話をしたり友人に手紙を書き職員が投函する支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには皆で作成した壁紙や願い事が貼ってありくつろげるようにソファが配置してある。フロアにいと台所から食事を作る音やにおいがする。	食堂兼リビングは、高い天井からの採光や天井で回る大きなファンの室温と気流の調節で、ほど良い明るさ、温度、空気となっている。毎朝の清掃で清潔が保たれている。利用者は、食事の準備をする音や匂いを感じながらソファで寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースでは座る場所が決まっているが自らエアロバイクをしたりソファに腰掛けたり思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には慣れ親しんだ家具や飾り物置物利用者が作成したパッチワーク、仏様を配置してその人らしく暮らしている。	利用者が家で使っていたタンスやソファを持ち込んで貰い、本人が使い勝手の良い配置にし、家族の写真や好みの物を置き在宅時の生活の延長上を感じ居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになり壁面には手すりが設置してある。玄関は少し段差があるが車イスが通るようにスロープになっている。		